

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪市東成区深江南1-2-11	氏名	瓜生製作株式会社 代表取締役 瓜生卓郎
事業の概要（事業者の主たる業種）	26 生産用機械器具製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1) 計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2) 各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2013 年度	851	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	587.1	t-CO <sub>2</sub>
(3) 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	31	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての自己評価
コンプレッサや空調機器の更新、作業効率の改善、エネルギー使用量や電気料金の集計・公表を実施。ISO14001活動において省エネに取り組み、一定の成果が出ている。
(2) 次年度の取組み予定について
多くは継続活動であるが、環境配慮型の生産設備や空調機器への更新、作業効率の改善を実施し、電気料金の周知による節電意識のさらなる高揚を図る。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府八尾市若林町2丁目91番	氏名	株式会社レザック 代表取締役 川口 佳洋
事業の概要（事業者の主たる業種）	32その他の製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	246.8 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	236.9 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	14.6 %
基準年度比削減率（排出量ベース）	4 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
削減目標達成のために現在使用している空調、電灯などを高効率空調・LEDなどの最新設備に置き換える動きを行っている。空調については本年度も随時置き換えをする計画を検討している。電灯等の使用についてもルール化を進めており、使用していない部屋や交通量が少ない通路などは消灯し、通行するだけなどの際は原則使用しない方針で推進している。また車両運転時の走行距離を記録することで燃料使用量の把握する取り組みを実施を開始した。
(2)次年度の取組み予定について
次年度の取り組み予定として、空調設備のさらなる設備更新の実施を検討している。交換設備としては事業所内の空調を予定している。その他の取り組みとしては、今年度空調を交換予定の第1工場・第1工場内における電灯・空調使用のルールを決定・明文化し、社員に周知することを中心に進める。その他対策としては社内的に検討や意見募集を実施中。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市東成区深江南1-16-14	氏名	ドギーマンH.A.ホールディングス株式会社 代表取締役 林 雄一
事業の概要（事業者の主たる業種）	32その他の製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間		2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日		
(2)各年度における温室効果ガス総排出量		温室効果ガス総排出量		
基準年度	2022 年度	344.6 t-CO <sub>2</sub>		
前年度	2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>		
報告年度	2023 年度	388 t-CO <sub>2</sub>		
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況				
原油換算量削減率		%		
再エネ利用率		%		
基準年度比削減率（排出量ベース）		-12.6 %		
前年度比削減率（排出量ベース）		%		
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）				
基準年度比削減率（原単位ベース）		%		
前年度比削減率（原単位ベース）		%		

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年度に空調設備の更新および、系統変更による運用改善を行った効果もあり、削減効果として、原油換算で46.3kLのエネルギーを削減することができました。 ただし、契約している電力会社である関西電力の対象メニューに於いてCO <sub>2</sub> 排出係数が増加した為、CO <sub>2</sub> 排出量に換算した場合、43.4t-CO <sub>2</sub> の増加となりました。
(2)次年度の取組み予定について
引き続き、エネルギー使用量の管理、設備の運用管理を実行し、エネルギーの削減に努めます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市荒本新町2-3 6	氏名	有限会社ライラクス 代表取締役 安井 義一郎
事業の概要（事業者の主たる業種）	50各種商品卸売業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
基準年度	2022 年度	68.4	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	78.5	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-14.8	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
昨年度、本社の空調設備の大部分を更新した。その効果もあり、昨年度より電気使用量を削減することが出来ている。ただし、電力会社を変更したことでのCO <sub>2</sub> 排出係数が上がり、計算上のCO <sub>2</sub> 排出量は増加している。自社としての削減は出来ているため、排出係数については、電力会社の経過を確認していく。
(2)次年度の取組み予定について
更新した空調機器の適切な利用に努める。 また、その他の設備についても、使用状況の把握および適正化に努めていく。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	〒593-8302 大阪府堺市西区北条町2丁23番1号	氏名	株式会社 街路 代表取締役 本田 正
事業の概要（事業者の主たる業種）	6総合工事業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	118.9 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	96.1 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	19.2 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
弊社は道路舗装工事を主業種としております。 昨年度の社員全員の意識向上とそれによる社内努力によりエネルギーの総使用量も減り、総排出量を減らす事に取組みました。 今年度の目標取組に掲げていたマイボトル・マイカップの使用により、ペットボトル処分量も減りました。
(2)次年度の取組み予定について
取組2年目になり慣れが出ない様にゴミ収集担当者以外に対してもより分かり易い様に、月間の再利用可能な古紙回収量・プラスチック回収量を翌月始めに発表し、他月との比較が出来る様にし、より意識向上を図りたいです。 昨年度の取組で効果があった物を継続し身近に誰もが取組める環境を心がけます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪市中央区内本町1-1-10 リンサンビル	氏名	中林商事株式会社 代表取締役 中林 稔堯
事業の概要（事業者の主たる業種）	69不動産賃貸業・管理業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022 年度	112.9	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	116.7	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-3.4	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての自己評価
エネルギー使用量は削減できたが環境省が定める排出係数が増加したため、温室効果ガス排出量が増えてしまった
(2) 次年度の取組み予定について
照明管理等共用部の節電対策等を実施することで更なるCO <sub>2</sub> 削減を実現できるよう取り組む

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市新池島町 4-2-35	氏名	有限会社森口製作所 代表取締役 森口 清治
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分			温室効果ガス総排出量
基準年度	2021 年度	67	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	36.9	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	44.9	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
10年くらい前から電気はすべてLEDに替え、また機械も省エネ設備に更新を続けている。
(2)次年度の取組み予定について
10年くらい前から電気はすべてLEDに替え、また機械も省エネ設備に更新を続けている。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	東大阪市若江東町6-3-39	氏名	日光パッキン株式会社 代表取締役 北川年彦
事業の概要（事業者の主たる業種）	32その他の製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	157.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	170.7 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-8.5 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
・社内（工場・事務所）に576基ある蛍光灯をLED照明に切り替えた（2024年1月実施） ・電力のCO <sub>2</sub> 排出係数の影響により、CO <sub>2</sub> 排出量が増加した
(2)次年度の取組み予定について
・室内機用省エネルギー部材とコンプレッサー性能回復剤の導入を検討中

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪市西区九条南2丁目5番24号	氏名	株式会社ダイロック 代表取締役 畠村 理
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間		2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日	
(2)各年度における温室効果ガス総排出量		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022 年度	681.8	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	583.9	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	14.4	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
予定していたハンマープレス付属の油圧装置の更新を完了した。更新前に使用圧力・流量を計測した上でポンプ電動機を45kW×2台から37kW×2台に変更したが生産性に大きな影響はなく、炭素生産性が向上した。今年度は、走行炉式加熱炉の更新を予定している。次年度以降は老朽化が進むバッチ炉の断熱性能の改善を予定している。また、東京商工会議所が主催するECO検定の取得を目指すなど、環境に関する教育の取組みを進めていく。
(2)次年度の取組み予定について
熱間鍛造ラインの1981年に導入したウォーキングビーム式加熱炉を更新する。更新の計画に際し、まずは電気炉化を検討した。しかし、仕様に対し設備が大きく必要スペースが確保できず、また、事業所内受変電設備が550kVAを超え受電設備一式を見直さなければならない為、高性能ガス炉での更新を行うこととした。断熱性とエネルギー効率に優れた高性能ガス炉は、リジェネレーションバーナーと密閉性の高い反射炉を備えている。2021年に同型の加熱炉更新を行った実績では、ガス使用量を20%低減できた。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪市東成区中道三丁目15番5号	氏名	クロバー株式会社 代表取締役社長 岡田 知己
事業の概要（事業者の主たる業種）	32その他の製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023年	4月	1日	～
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022年度	190.1	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023年度	189.7	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	0	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	0.2	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
太陽光発電システムを新設し、初年度であるためこれによる削減効果はまだ低い。 重点対策として掲げている「機器台帳の整備」に関しては、機器の把握段階であり本年中に台帳化を完了させる。 同じく「コンプレッサーの適正管理」に関しては、適正な点検等の実施は出来ているものの、詳細数値把握やその管理が未達である。 その他の項目に関しては、概ね適切に実施できている。
(2)次年度の取組み予定について
2024年以降の取り組みとしては、 ① 「機器台帳の整備」及び適切な運用 ② 「コンプレッサーの適正管理」の詳細把握と適切運用 以上を中心として、その他必要事項を適宜追加補填していく

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市福島区福島6-4-10 ウエストビル2階	氏名	医療法人臨研会 理事長 福本 素由己
事業の概要（事業者の主たる業種）	83医療業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分			温室効果ガス総排出量
基準年度	2022 年度	5	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	6.6	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	0	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-32	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
温室効果ガスの排出量の削減に向けて、電気エネルギー使用量の削減を重点的に行った。2023年7月に空調設備の更新工事を行ったことで、2022年度と比較して事業所全体のエネルギー総使用量は削減できたと実感しているが、電力のCO <sub>2</sub> 排出係数の影響によりCO <sub>2</sub> 排出量が増加した。
(2)次年度の取組み予定について
更なる年間エネルギー削減を目指し、気候変動への対策を強化し、推進体制の整備や省エネ可能な設備機器の更新も検討し、引き続き従業員全体で省エネに取り組む予定である。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市鶴見区放出東一丁目8番16号	氏名	株式会社勝光社 代表取締役社長 上野 翼
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013 年度	738.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	514.3 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	30.3 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年度に変圧器の更新を実施しました。 今年度もエネルギー使用量の管理や、設備の運用管理を実行することで、削減目標の達成をしていきます。
(2)次年度の取組み予定について
引き続き、エネルギー使用量の管理、設備の運用管理を実行し、エネルギー削減に努めます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市西区江戸堀 1 丁目 23-21 ビエラ 江戸堀 1F	氏名	縁petit株式会社 代表取締役 丸尾聖
事業の概要（事業者の主たる業種）	76飲食店			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022 年度	16.3	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	15.6	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	4.3	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
使用していた空調を新しいものに交換したため、温室効果ガスの排出が減った。またエネルギーごとの使用量を台帳等で把握している。
(2)次年度の取組み予定について
ガスの機器なども徐々に最新のものへ変更し、温室効果ガスの排出を減らしていく予定。ボイラーの圧力なども定期的に点検し管理していく。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市加納5丁目14番12号	氏名	株式会社美作研磨工作所 代表取締役 福西 邦彦
事業の概要（事業者の主たる業種）	31輸送用機械器具製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2014 年度	125 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	57.9 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	53.7 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	生産金額
基準年度比削減率（原単位ベース）	43 %
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
基準年から今年度にかけて、LED照明への付替工事・ソーラーパネルの設置を行ってきた。また、工場内で一番削減効果があると思われるコンプレッサーの入れ替え・空調設備の更新を行ったこと、老朽化した機械設備の更新で大幅に削減できたと思われる。
(2)次年度の取組み予定について
次年度も続けて設備更新を行うこと、各部署の空調の設定温度を取り決め温室効果ガスの削減に取り組む。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	京都市下京区松原通寺町 西入石不動之町695番地	氏名	株式会社コンコルディア 代表取締役 杉本達哉
事業の概要（事業者の主たる業種）	20なめし革・同製品・毛皮製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	68.2 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	61.7 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	9.5 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
・事務所、会議室、完成検査工程のエアコン入れ替え（2023年7月）（1986年製エアコン⇒最新エアコン（省エネ率22%）
(2)次年度の取組み予定について
・稼働時間の削減（年間休日増、残業時間減）

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市柏田西1-12-26	氏名	帝国イオン株式会社 代表取締役社長 中村 綾佑
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023年	4月	1日	～
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022年度	515.6	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023年度	603.6	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-17.1	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年度はガスの効率的利用に重点的に取り組みました。結果、都市ガス使用量を前年度比で4.4%削減することができました。
全体でも原油換算でエネルギー使用量14kLの削減（前年度比削減率4.5%）を達成しました。
(2)次年度の取組み予定について
・省エネルギーセンター様のご支援を受けてエネルギー使用の最適化に取り組みます。 ・硬質クロムめっき全槽（8槽）の熱交換器を随時ヒーターからニオブ製蛇管に替えていく予定です。 ・現在取り組んでいる硬質クロムめっき用装置の小型化を継続し、エネルギー消費量を抑制できる生産方法を確立します。 ・電気自動車やドローンの航続距離延長に貢献できる軽量（従来比1/2以下）な二次電池用集電体の開発を進めており、各メーカーに試作品を提供しています。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府門真市幸福町20-2	氏名	株式会社ハイジ 梶 由勝
事業の概要（事業者の主たる業種）		85社会保険・社会福祉・介護事業		

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	129.2 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	121.3 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	6.1 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2022年9月からの電気事業者の変更、太陽光発電装置の導入などにより基準年度比で総買電量が5.7kwh減少しており、温室効果ガスの削減に貢献している。 また、2023年11月より省エネ担当者を配置しており今後の省エネ対策を進めていく。
(2)次年度の取組み予定について
電量削減のために、LED照明の普及、空調管理ルールの制定を行う。また、省エネ担当者が定期的に省エネ報告会を取りまとめ、定期的な改善を進める

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府堺市堺区新町5番32号	氏名	株式会社 上塙 代表取締役 宮園政卓
事業の概要（事業者の主たる業種）	69不動産賃貸業・管理業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022 年度	43.2	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	55.8	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	10	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-29.2	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
本年度はエネルギー使用量及び温室効果ガスの排出の量の削減に、高効率の空調への入替えとLED照明への変更および保有する車両1台をハイブリッドからプラグインハイブリッド車へと削減に努めました。しかし、残念ながら削減に反映していません。考えられる理由としましては、空調及びLED照明への入替えが期中途中の11月頃となり、又、自家発電（再エネ）蓄電池の不具合。尚、一番の要因は、契約する電気事業者のCO <sub>2</sub> 排出係数が大幅に高くなった事です。
(2)次年度の取組み予定について
次年度も昨年度と同様に、積極的に高効率設備・省エネルギー製品への入替えを検討します。又、保有自動車の削減を実施します。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	高槻市芥川町1丁目2番A-0111号	氏名	クトアモーレ・店舗部会管理組合法人 理事 柿原 勝彦
事業の概要（事業者の主たる業種）	69不動産賃貸業・管理業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013年度	716.8 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023年度	504.9 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	29.6 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
汚水ポンプが運転し続けるものがあり調査したところ、配管が斜めになっている部分でつまりが発生しており無駄な運転となっていた。詰まりを除去すると共にバタ弁の開度を75%から100にし詰まりにくくした。看板照明を蛍光灯からLED照明に更新した。
(2)次年度の取組み予定について
汚水ポンプ運転時チャッキ弁が開くのに時間がかかるものがあり、その時間のポンプ運転が無駄になっている。チャッキ弁を取替ポンプの無駄な運転を無くす。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市大蓮東4-12-45	氏名	株式会社 中島大祥堂 代表取締役 中島 慎介
事業の概要（事業者の主たる業種）	9食料品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023年	4月	1日	～
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022年度	827.4	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023年度	838	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	10	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-1.3	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
以下の取り組みにより、2022年度と比べてエネルギー使用量を2,689GJ削減しているが、CO <sub>2</sub> 排出係数が変動した影響により温室効果ガス排出量が増加することとなった。
2023年 太陽光発電を導入実施。年間の発電量として123kWを発電し、全て大阪工場の電力として利用。また今回の産業用モーター補助金にて導入した三浦工業製 熱交換機付コンプレッサー導入により、コンプレッサー排熱を利用して温水を作り(△t=20~30°C)、その温水をボイラーに供給することで、ボイラーで使用する都市ガス量を大幅に削減している。
(2)次年度の取組み予定について
熱交換機付コンプレッサーから生成された温水を貯留するボイラー用温水タンクの保温(これによりボイラーで使用する都市ガス量のさらに削減)の実施。 レトルト殺菌装置に関して熱水回収、再利用タンクの導入検討によるボイラー蒸気使用量の削減の実施。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府貝塚市森497番地	氏名	医療法人 永和会 理事長 南川 佳之
事業の概要（事業者の主たる業種）	83医療業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	1201.6 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	958.6 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	30 %
基準年度比削減率（排出量ベース）	20.2 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
院内のSDGs研修を通じ職員の意識向上とともにエネルギー対策に取り組みCO2排出削減を進めている。
(2)次年度の取組み予定について
令和5年12月に大阪ガスとD-GREEN契約を結び、再生可能エネルギー由来であるとの価値を付与するとともにCO2排出量ゼロとする。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市住之江区御崎2-14-25	氏名	東亜機刃株式会社 代表取締役 馬場 基博
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	40.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	45.9 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-13.9 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年度に空調設備の更新を行い、削減効果として1,362kWh削減することができたが、電力のCO <sub>2</sub> 排出係数の影響により排出量が増加した。 今年度もエネルギー使用量の管理や、設備の運用管理を実行することで、削減目標の達成をしていきます。
(2)次年度の取組み予定について
引き続き、エネルギー使用量の管理、設備の運用管理を実行し、エネルギーの削減に努めます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市阿倍野区播磨町1-14-2	氏名	株式会社樋口松之助商店 代表取締役 樋口弘一
事業の概要（事業者の主たる業種）	32その他の製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	～ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022 年度	283.3	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	312.4	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-10.3	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
昨年度にコンプレッサーの更新を行い、今年度はボイラーと中温用エアコンの更新を行う予定です。設備の更新と共にエネルギー使用量の管理や、設備の運用管理を実行することで、削減目標の達成をしていきます。昨年度については、自社での削減は出来てきましたが、排出係数の変更に伴いCO <sub>2</sub> 排出量が増加していました。こちらについては、電力会社の経過を確認していきます。
(2)次年度の取組み予定について
今後も、古い設備については、最新の省エネ機器に更新することを検討していきます。また、引き続きエネルギー使用量の管理、設備の運用管理を実行し、エネルギー削減に努めます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府門真市四宮6丁目1番25号	氏名	内外紙工株式会社 代表取締役 若林敬造
事業の概要（事業者の主たる業種）		14パルプ・紙・紙加工品製造業		

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	101.2 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	123.7 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-22.2 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
電力会社をハルエネから関西電力に移行したことで、温室効果ガス排出量が増加した
(2)次年度の取組み予定について
電気自動車導入を検討しているが、問題が多そうなので、しばらくは様子見する。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市港区波除2-7-19	氏名	翁鍼灸整骨院 翁 隆
事業の概要（事業者の主たる業種）	83医療業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013 年度	5.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	9.2 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-73.6 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
削減できていない。こまめに不必要的電気を消すようにする。
(2)次年度の取組み予定について
自分だけでなく、家族が使う電気も意識して削減する

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府八尾市山賀町4-13-9	氏名	株式会社西口製作所 代表取締役 西口 良仁
事業の概要（事業者の主たる業種）	23非鉄金属製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	3394.2 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	3248.5 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	4.3 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
機械が増えたことにより、エネルギー総使用量が増えたと思われる所以、把握しながら排出削減に取り組む。再エネecoプラン等も検討していく必要があるかもしれない。
(2)次年度の取組み予定について
高効率設備への切替や省エネ製品の導入を検討する。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府堺市堺区遠里小野町2-4-26	氏名	株式会社 田中食品興業所 代表取締役 田中 利明
事業の概要（事業者の主たる業種）	9食料品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023 年	4 月	1 日	~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2013 年度	3917.5	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022 年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023 年度	2762.1	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	0	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	29.5	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）			
基準年度比削減率（原単位ベース）		%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての自己評価
製品製造をまとめて行うことで洗浄によるエネルギー使用回数を削減したことにより、排出量の削減につながっていると考えており、今後も改善に努める。 ただし、今回の削減率が大きかった要因としては生産量の減少によってそもそもエネルギー使用量の減少も考えられる。
(2) 次年度の取組み予定について
環境マネジメントシステム ISO14001を自社運用を継続し、環境保全と環境負荷の少ない製品開発に努め、省資源・省エネルギーを進めていきます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪市港区港晴2-4-4	氏名	北村医院 北村 雅哉
事業の概要（事業者の主たる業種）	83医療業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013 年度	23.5 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	23.2 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	1.3 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
初年度のため、どのように削減すべきかを検討しながらの使用でした。
(2)次年度の取組み予定について
目標削減率を1.5%とし、前年度の数値と現状の数値を比較しながら、室温調節などこまめに削減に取り組む予定です。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市浪速区桜川3-5-4	氏名	株式会社 浅野製作所 代表取締役 浅野 透
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	158.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	131 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	17.2 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
1割程度削減できたので、この取り組みに参加して良かった。
(2)次年度の取組み予定について
このペースを維持しつつ削減に繋げていければよいと思います。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府高石市高砂3丁目30番地	氏名	大阪金属株式会社 代表取締役 津田 岳彦
事業の概要（事業者の主たる業種）	22鉄鋼業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	878.8 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	1007.4 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-14.6 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
製造量の減少により、エネルギー使用量も減少しました。
2024年1月に造型機の入替を実施しました。機械の老朽化による不良を改善させ、湯漏れを防止することにより、業務の効率化を実現し、エネルギー使用量の削減に繋がったと思われます。結果、温室効果ガス排出量は、削減できました。
削減率がマイナスの理由は、関西電力の排出係数の変動によるものです。
(2)次年度の取組み予定について
2024年9月に中子造型機2台を入替予定。50年前に製造された手動の機械を、半自動化の機械と入替えます。生産性の向上、省エネ効果を期待しています。
一方、2024年6月に従業員の熱中症による健康被害を防ぐために、工場にクーラー3台を設置。
エネルギー使用量は必然的に増加し、温室効果ガスの削減は厳しい状況になる予定です。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府泉大津市東助松町2-9-1	氏名	ケーキファクトリーノア 大工 真昊
事業の概要（事業者の主たる業種）	58飲食料品小売業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2021 年度	13 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	10.4 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	20 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
設備（冷蔵・冷凍庫、ショーケース、オーブン等）を更新し、省エネへ取り組む。 空調温度の適正化や環境に配慮した容器・包装材の導入、過度な包装の取りやめ。 店頭の緑化をおこなう。 今年度実施：冷蔵・冷凍庫の設備更新、空調温度の適正化。
(2)次年度の取組み予定について
次年度実施：空調温度の適正化、過度な包装の取りやめ。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府大阪市浪速区元町1-5-7 ナンバープラザビル10階	氏名	富士興産株式会社 代表取締役 赤嶺和俊
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023年	4月	1日	~ 2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022年度	132.7	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023年度	165.1	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率	60	%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	-24.4	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	生産量		
基準年度比削減率（原単位ベース）	-24.4	%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年9月にバッテリー式のフォークリフトを導入いたしました。エンジン式フォークリフトから電動フォークリフトへ随時入替を行っており、車両使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量削減に取り組んでいます。また、金属切断に使用するガス切断機で水素ガスを使用するハイドロカットを導入、従来のアセチレンガスに比べCO <sub>2</sub> 排出量が84%削減されます。削減率▲24.4%の要因につきましては、働き方改革に伴い2022年7月より倉庫に大型空調機を導入した為、電気使用量が増加したことと、 トラック使用頻度の増加によるものです。
(2)次年度の取組み予定について
前年度に続き、2024年6月にフォークリフトをエンジン式のものからバッテリー式のものに入れ替を行いました。年度内にさらにもう一台変更する予定です。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市箕輪2-1-37	氏名	日東化工株式会社 代表取締役 草野 宇雄
事業の概要（事業者の主たる業種）	19ゴム製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022年度	32.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023年度	47.7 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-47.7 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	生産量
基準年度比削減率（原単位ベース）	-59.1 %
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2023年度（2023年4月～2024年3月）につきましては、アフターコロナの影響で前年度（2022年度）より仕事量が著しく増加したことに加えまして、この度の補助事業である太陽光発電設備の施工完了日が2024年2月20日、稼働開始日が2024年2月23日からでしたので、実質2024年3月の1ヶ月だけの稼働であり2023年度を通しては十分な削減効果を出せなかつた為に削減率がマイナスになってしまった。
(2)次年度の取組み予定について
2024年度につきましては、太陽光発電による自己消費電力の大幅な削減が見込まれます。更に2025年度以降に「ガソリン車からEV車への置き換え及びそのEV車の蓄電池からの事業所への給電」の実施ができるよう資金調達も含めて計画をしていく。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府堺市美原区太井248-1	氏名	株式会社イシカワ 代表取締役 石川剛柔
事業の概要（事業者の主たる業種）	8設備工事業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	53.7 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	48.5 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	9.7 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
照明器具はLED化済、また空調機器も高機能型に更新しました。使用電気量の把握のため日本テクノ製のデマンド監視システムを導入して節電対策をしています。休憩時間中や不在時は、不要な照明器具等の使用を避け節電しています。
(2)次年度の取組み予定について
引き続き、常に節電・省エネを意識してムダな電気を使わないようにしていきます。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府八尾市上之島町南2-1-3	氏名	上野建設工業株式会社 代表取締役 上野 純孝
事業の概要（事業者の主たる業種）	6総合工事業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2021年度	26.7 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023年度	21.5 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	19.5 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
社内の照明器具については、既存の蛍光灯・電球からLED照明器具へ切替を行った。また、空調機器についても、より高効率な空調機器への切替を行った。例年に比べ異常気象の日が長期間続き、社員の体調管理のために空調機器の使用頻度・期間が大幅に増えたが、消費電力は前年度に比べ削減することができた。車の燃料については、業務上必要不可欠であり使用量の調整も困難であるが、エコ運転等で工夫し削減に務めた。
(2)次年度の取組み予定について
社内のサステナビリティ委員会にて省エネ製品の導入について検討する。また、既存設備の高効率設備への切替も順次検討する。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府東大阪市横枕西12-16	氏名	株式会社マルク 久野利一
事業の概要（事業者の主たる業種）	55その他の卸売業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013 年度	0.3 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	0.3 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	0 %
前年度比削減率（排出量ベース）	0 %
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
倉庫内にテント間仕切・天井を設置し、空調の冷気・暖気等の逃げ対策した。
(2)次年度の取組み予定について
倉庫内のレイアウトを見直し、空調の必要部分を限定することにより消費電力に減少に取り組む予定

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府門真市東田町26番15号	氏名	株式会社三協 代表取締役中村万寿雄
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年4月1日～2031年3月31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2022 年度	256 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	298.6 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	-16.6 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
社用車をハイブリット車に変更したり、補助金を使ってキュービックルを新しいものに変更しましたが、2022年より2023年の方が仕事量が増えた為、大きな削減にはなりませんでした。
(2)次年度の取組み予定について
仕事立ち上げ時の電力使用量を削減する為、時間外労働をなくし、中日に休日がある際は、連休で休みを取り、中日の休日を稼働日にする等の対策をしていく予定です。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府寝屋川市点野3丁目25-1	氏名	株式会社 川下機工 代表取締役 川下英孝
事業の概要（事業者の主たる業種）	31輸送用機械器具製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2031 年 3 月 31 日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	
区分	温室効果ガス総排出量
基準年度 2014 年度	1377.7 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	1199 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	10 %
基準年度比削減率（排出量ベース）	13 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
・増新築したプレハブ倉庫について、壁と天井に断熱材を使用することで省エネ対策を実施した ・コンプレッサーの設定圧の見直し ・クレジットの活用（全社電気使用量の10%）
(2)次年度の取組み予定について
・太陽光発電の自家消費を検討 ・生産工程ごとの電力使用と排出量を可視化検討 ・大型コンプレッサーの入れ替え ・コンプレッサーの熱換気の効率化による電力消費の抑制

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府八尾市若林町2-111	氏名	株式会社 菱屋 代表取締役 柳本泰志
事業の概要（事業者の主たる業種）	26生産用機械器具製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間	2023年 4月 1日 ~ 2031年 3月 31日
(2)各年度における温室効果ガス総排出量	温室効果ガス総排出量
基準年度 2013 年度	241.7 t-CO <sub>2</sub>
前年度 2022 年度	0 t-CO <sub>2</sub>
報告年度 2023 年度	91.8 t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況	
原油換算量削減率	%
再エネ利用率	%
基準年度比削減率（排出量ベース）	62 %
前年度比削減率（排出量ベース）	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	
基準年度比削減率（原単位ベース）	%
前年度比削減率（原単位ベース）	%

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
脱炭素経営に向け宣言を行い社内体制の構築を進めてきたが、コロナ以降の不況の煽り、原材料費や光熱費の高騰などの影響を受け会社の維持で精一杯の状況である。 とは言え、出来るところから進めるべく、業務用車両について軽油エンジン車両やガソリンエンジン車両を廃止し、エコカー（ハイブリット車両）を導入している。
(2)次年度の取組み予定について
2031年度までの自社の事業活動における温室効果ガスの削減を達成するため、今年度後半よりCO <sub>2</sub> 排出量の現状把握をはじめることにした。 今年度と次年度で、通年での二酸化炭素排出状況を確認し、再来年度を目処に削減計画を立てて、削減に向けて更新する設備などを検討していきたいと考えている。 ただし、現在、脱炭素経営に必要な知識を持った社員がいないため、今回の事業を通じて今後の脱炭素化の取組を支える社員を育て、再来年度に予定している削減計画の策定では中心的な役割を担ってくれることを期待している。

# 実績報告書

## 1. 届出事業者の基本情報

届出者	住所	大阪府和泉市春木町68	氏名	朋友金属株式会社 代表取締役 津田岳彦
事業の概要（事業者の主たる業種）	24金属製品製造業			

## 2. 温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況

(1)計画期間			
2023年	4月	1日	～
(2)各年度における温室効果ガス総排出量			
区分		温室効果ガス総排出量	
基準年度	2022年度	185.2	t-CO <sub>2</sub>
前年度	2022年度	0	t-CO <sub>2</sub>
報告年度	2023年度	182.3	t-CO <sub>2</sub>
(3)温室効果ガスの排出の量の削減に関する目標の達成状況			
原油換算量削減率		%	
再エネ利用率		%	
基準年度比削減率（排出量ベース）	1.6	%	
前年度比削減率（排出量ベース）		%	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ 値名（選択した場合のみ）	取扱量		
基準年度比削減率（原単位ベース）	5.4	%	
前年度比削減率（原単位ベース）		%	

## 3. 気候変動の緩和及び気候変動への適応並びに電気の需要の最適化のための対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての自己評価
2022年度末に金属加工の第二工場を閉鎖し、その分の電力使用が無くなった為、当然のことながら電力使用量が減少した。当社では電力が温室効果ガス排出内訳の8割を占めるので、自ずと温室効果ガス排出量が減少する結果になった。一方で原単位ベースでは削減率が排出量ベースを上回っており、取扱量に対する温室効果ガスの排出量が削減出来ているといえる。とは言え効率の良い生産計画についてはまだまだ改善の余地がある。省エネ設備の導入は行っていない。
(2)次年度の取組み予定について
電気自動車の導入決定。生産性向上を目指した省エネ型の生産設備導入の検討。